もっと北海道

Hokkaido ECO action!

節電も楽しく、賢く！
スマートライフを
始めよう！

節電の夏に、私たちが家族でできること。快適で、さらにエコにつながる工夫や取り組みについて、主婦の視点で話し合いました。

Vol. 01

菅井貴子さん×主婦の皆さんによる 節電会議

3名の主婦の方にお話を聞きました！

フリーキャスター
気象予報士
菅井貴子さん（左）
横浜市出身。天気予報や環境番組のキャスターを務める。気象予報士・防災士・CFPなどの資格も有する。小中学校への環境出前授業や講演を行うほか、北海道環境審議委員も務める。

株式会社エルアイズ
代表取締役社長
山本亜紀子さん（左中）
主婦が発信・情報交換するマーケティングサイト「主婦ラボ」を運営。主婦が参加して作るフリーマガジン「CuLabo（くらぼ）」を7月に創刊。札幌在住、2児（14歳、12歳）の母。

合同会社のこたべ
代表取締役
平島美紀江さん（右）
自然、食、環境をコンセプトにした子育て冊子&サイト「のこたべ」を運営。コープさっぽろ広報誌「Cho・co・tto」編集長、子育てサロン、小学生の放課後教室などを行っている。札幌在住、2児（10歳、2歳）の母。

株式会社Mammy Pro
代表取締役
阿部夕子さん（右中）
育児情報・子育て支援のポータルサイト「ママNavi」を運営。子育てと住まいのサイト「ママ住ま」運営やフリーペーパー発行、親子カフェなども展開している。札幌在住、1児（11歳）の母。

「当たり前」を続けることが大切。

菅井　全国で節電が求められるこの夏、北海道でも家庭の電力使用量マイナス7％以上という目標値が示されています。皆さんは節電についてどう思われますか？

山本　冬は暖房を抑えるなど節電を意識していましたが、冷房を使うことが少ない北海道の夏は工夫が必要ですね。毎日の暮らしで家族一人一人ができることを実践しなければ。

阿部　主婦にとって節電は家計に直結するので特別なことではありません。だからこそ普段やっていることを継続することが大切ですね。子どもも学校で節電を勉強していて「ママ、使わない電気は消して」と指摘してくれるので助かります（笑）。

平島　節電の本質って、ムダを省いて必要な電気を必要なだけ使うというシンプルな暮らしの原点に帰ることじゃないかな。それは強制されるものではなく、生活をやりくりする主婦にとっては「当たり前」なんですよね。

主婦・企業経営者の両方の目線から、無理をせずに行っている節電アクションについて和やかに話していただきました。

主婦ならではの節電アイデアは多彩！

菅井　すでに家庭で実践している、これから実践したい節電アクションはありますか？

阿部　私は深夜まで起きていることが多いのですが、この夏から1時間早寝するつもり。照明やテレビ、パソコンなどの電力量を減らせると思います。

山本　家では家族全員ひとつの部屋で過ごしたり、外ではボロクルやベロタクシーを積極的に利用します。私が運営するサイト「主婦ラボ」に寄せられた「ロボット掃除機を夜間に充電して日中稼働させる」アイデアは私も実践したいですね。電力使用量がピークになる時間帯の電力消費を抑えられますから。

平島　電力使用量のピークは夕食の準備と重なるので、酢の物やサラダなど、熱源による調理が不要で夏らしいメニューを考えています。わが家は子どもが小さいので短時間調理を心掛けていますが、これも節電につながるかも。「節電しなければならない」と負担に思うのではなく、日々の楽しみに変えれば長続きすると思います。

「知っている」から「やっている」へ。

菅井　主婦であり企業経営者でもある立場として、仕事を通して節電対策とどう関わっていくか、思うところをお聞かせください。

山本　「主婦ラボ」にも節電アイデアが多数寄せられます。窓辺に植物を植えてグリーンカーテンを作る、冷蔵庫の冷気を逃さないカーテンをつける、北海道電力のWeb料金お知らせサービスを利用して「電力の見える化」を図るなど、主婦ならではのアイデアがいっぱい。こうした主婦目線の暮らしのヒントを全道に広げるべく、この夏フリーペーパー創刊を予定しています。

阿部　電力の見える化は効果的ですね。「マイナス7％」ではなく「マイナス○kW＝○円おトク」の方が、家計を守る主婦はやる気が出ます（笑）。

平島　私が発刊しているフリーペーパーで以前「電力の見える化による電気料金の変化」を特集した際にも読者の反響は絶大でした。タップ式コンセントで待機電力をカットする、テレビの照度を下げるなどの小さな工夫で電力コストが下がると分かれば励みになります。現在作成中の「熱源を使わないエコレンジ」も、節電はもちろん子どもの食育の観点からもアピールしていきたいですね。

阿部　節電対策が子どもや家族の幸せにつながればいいですよね。私の会社のモットーは「残業しない」。定時で帰ればオフィスの電力を削減でき、家族団らんの時間が増えて会社も家庭もハッピーになれる。ぜひ多くの企業に実践していただきたいなと思います。

平島　家庭でも企業でも節電に関する情報はすでに認知されている。でも「知っている」と「やっている」は違うんですよね。みんなが「やってみる」ことで、社会が変わるきっかけになればいいですね。

電気が消えると、明るい未来の灯がともる。

北海道エコ・アクション ガイアナイト2012

2012年の夏は「節電」をテーマに、「北海道エコ・アクション ガイアナイト2012」を開催します。
さっぽろテレビ塔のライトダウンをはじめ、キャンドルアートや、ライブステージなどイベント盛りだくさん。
節電や環境のことを考える、夏の一夜をどうぞご一緒に。

- 開催日時／2012年7月7日（土）19:00～22:00
- 会　　場／さっぽろテレビ塔1階テラス（札幌市中央区大通西1丁目 サッポロクラシックビアガーデン会場）
- 実施内容／●コンサドールズ 節電トーク&エコダンス…コンサドーレ札幌 オフィシャルダンスドリルチーム が登場！
  ●キャンドルアート……ライトダウンしたテレビ塔の下で幻想的なひとときを。
  ●ガイアナイトコンサート……札幌在住アーティストによる心地よい音楽が会場を包み込みます。

※イベント内容は、予告なく変更になる場合がございます。

今できること、「考える」から「行動する」へ！

▶詳細はホームページへ http://eco.hokkaido-np.co.jp 北海道エコ・アクション 検索

企画制作／北海道新聞社広告局

北海道経済部産業振興局 環境・エネルギー室
札幌市中央区北3条西6丁目 TEL.011-204-5319（ダイヤルイン）

緊急雇用創出推進事業 受託コンソーシアム
社団法人北海道商工会議所連合会　novello

※1 北海道電力（株）によると、8月の供給力485万kWを基準とした場合、安定供給が可能な需要は470万kW以下と考えられ、猛暑であった一昨年の1日最大電力実績、506万kWと比べると約37万kWのギャップが生じる。
※2 需給ギャップ約37万kW÷一昨年最大電力実績506万kW≒7%